

## 令和 5 年度事業計画

新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されつつあります。それに伴い、JAPA の活動も感染予防対策を施した上で正常に戻りつつあります。感染症によりダメージを受けた航空界の活性化を図るべく、定款の定め通り【航空技術の向上を図り、航空の安全確保に努め、航空知識の普及と諸般の調査研究を行ない、もって我が国の航空の健全な発展に寄与することを目的】として、令和 5 年度の事業計画を作成しました。

近い将来にパイロット不足が予想され、既に各航空会社では採用が再開しつつあります。しかしながら、コロナ禍の影響で航空業界の人気は低落しています。その回復を図るため、次世代を担う児童や青少年を対象に、パイロットや航空全般の魅力を伝えるべく、FTD（飛行訓練装置）等を活用し、全国規模で様々なイベントを開催すると共に、各地の外部団体が開催する催事にも参加し、航空の裾野を拡大する事業を積極的に推進していきます。

また、航空の安全向上を知識面で支えるシンポジウム、講習会、セミナー等は、感染症下でのハイブリットやリモート方式での開催が新しい広がりを見せており、今後もその形態を残しつつ、教材の更新も行いながら、IT 化の利点を活かした開催によって、航空の安全文化の普及と啓発並びに安全対策、情報(知識)の伝達と提供に努めます。

そして、刊行物の電子書籍化を推進して、会員が多くの知識と情報を容易に得られるよう利便性を向上させると共に、ホームページ、メールマガジン等の Web サイトを利用して、動画を含めた情報(知識)の伝達と提供の迅速化を図っていきます。その他、引き続き協会内の IT 環境整備を進め、会員サービスの向上と業務の効率化に努めます。

関係省庁並びに外部団体主催の委員会、研修等へ積極的に委員を派遣して、パイロット視点から意見や知識を発信し、航空の発展に尽力していきます。

女性の航空界への進出も課題です。女性航空教室等へ参画していくと共に、理事や運営委員としての女性の参加を促進していきます。

そして今後、会員の高齢化が協会の財務や活動に及ぼす影響を考慮し、将来的に健全な財務体質を維持し、安定した協会活動により航空界の発展に貢献出来るように、新規会員の獲得に努めると共に、会員制度の見直し等の必要な対策を実施します。

その他、協会の目的を達成する為に必要な事業として、会員の福利厚生の実を図り、表彰関連事業も実施していきます。

公益社団法人としての責務と使命を果たすべく、会員のボランティア活動を主軸として、法人会員、省庁、関係諸機関及び諸団体の協力や支援も得ながら、以下の事業を遂行して行きます。

## 1. 航空の安全文化の普及と諸般の調査研究事業を対象とする事業

関係省庁、関係諸機関、関係諸団体と協力し「Fly with us～空の仕事ワークショップ～」 「スカイスクエア」を開催します。また「女性航空教室」にも積極的に参画していきます。更に「Be a pilot(パイロットの魅力を発信するプロジェクト)」等のイベントを推進していくと共に、「キッズ Be a pilot」等の新たなアイテムも設定し、広い年齢層に航空の安全文化を普及していきます。そして FTD（飛行訓練装置）とポータブル FTD を活用し、裾野拡大イベントとの連携も含め「体験搭乗」を実施して航空の魅力を広めていきます。

刊行物の電子書籍化を推進し、「ホームページ」、「メールマガジン」、「E-journal」、「パイロット誌」等を利用し、会員へ豊富な知識と情報を提供していきます。

大型航空機、回転翼機を含む小型航空機等と無人航空機の運航に関して、関係省庁、関係諸機関、関係諸団体が主催する委員会や研修等へ委員を派遣し、またそれらが主催する諸般の活動にも参画して、パイロットとしての知識や情報をもとに意見を提供していくことによって航空全般の安全への貢献に努め、航空機操縦士養成連絡協議会等の種々の活動の調整役も務めていきます。

航空身体検査証明審査会にパイロット代表として参加し意見を述べると共に、「航空医学適性セミナー」を開催します。また新たな活動として「ピアサポートプログラム」への協力を加え、航空身体検査に関する各種の情報については「ホームページ」「パイロット誌」等の様々な媒体を通して発信していきます。

## 2. 運航の安全に資する知識の向上と情報提供及び調査研究を対象とする事業

パイロット、航空関係者を対象に、知識の向上と情報提供の為に「ATS シンポジウム」、「航空気象シンポジウム」等を開催し、事業用操縦士、自家用操

縦士を主たる対象とした「TEM/CRM セミナー」、「SRM セミナー」、団体向けの「出張セミナー (TEM/CRM)」、小型航空機操縦士が対象の「小型航空機セーフティセミナー」、運航関係者に向けた「航空安全セミナー」等を開催します。また、自家用操縦士を対象に「航空安全講習会」等を開催していきます。それらに使用する教材の更新も適宜実施していきます。

技量習熟の支援では、小型航空機運航者を対象とした「RNAV 講演会」を実施します。

また、FTD を使用して技術習熟支援の為の「ワンポイントレッスン」を実施し、更に事故防止や調査研究の為にも活用していきます。

参考文献及び教材を使用して知識の向上を図り、情報の提供を行います。具体的には、航路情報を提供する「区分航空図」、学科試験受験者を対象とした「学科試験スタディガイド」を発行します。また、操縦訓練の基礎を学ぶ「TAKE OFF」も発行します。同様に回転翼操縦士の方を対象とした「ヘリコプター操縦教本」も発行します。そして、航空機運航に必要な全般的な知識と情報を記載した「AIM-J」を発行します。更に、日常運航において身近な参考資料となる「パイロット手帳」も発行します。

今後、利用者の利便性を考え、これらの文献と教材の電子書籍化を推進します。

急速に普及している無人航空機の運航について、安全性確保のため、外部団体委員会への参加及び調査研究を実施します。

### 3. 本協会の目的を達成するために必要な事業

会員の福利厚生のため、パイロットへ向けたロスオブライセンス等の保険の充実や会員優待・割引の拡充を図ります。並びに顧問弁護士による法律相談も実施します。

航空の発展に貢献された方々や、次世代を担う航空大学校や各大学の操縦学科の学生、民間養成機関の訓練生への表彰関連事業を実施します。

	定義に定める事業	事業計画	区分
1	航空の安全文化の普及と啓発	スカイスクエア	公1
		Fly with us ~空の仕事ワークショップ~ Be a pilot	公1
		航空安全セミナー	公2
		FTD と ポータブル FTD を利用した裾野拡大	公1
		関係省庁主催委員会 委員 派遣	公1
		航空機操縦士養成連絡協議会	公1
2	安全対策 (制度と運用)	航空医学適性セミナー	公1
		学科試験問題検討会	公1
		航空安全講習会	公2
		VOICES への参画及び情報提供	公2
3	情報(知識)の 伝達と提供	小型航空機セーフティーセミナー	公2
		シンポジウム開催 「ATS」「航空気象」	公2
		TEM/CRM セミナー、SRM セミナー、出張セミナー	公2
		参考文献及び教材提供 「区分航空図」「学科試験スタディガイド」「AIM-J」 「TAKE OFF」「ヘリコプター操縦教本」 「パイロット手帳」 「HIMS ガイダンス」 「ヘリコプター運航動画」等	公2
		航空情報提供 「ホームページ」「パイロット誌」「E-journal」 「メールマガジン」等を用いた発信	公2
		航空身体検査証明審査会、航空身体検査 Q&A	公2

4	技術習熟の支援	RNAV 講演会	公 2
		FTD を使用した技術習熟支援 「ワンポイントレッスン」等	公 2
5	情報収集と調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 航空業界における情報収集と諸研究のフィードバック</li> <li>・ FTD を利用した調査研究への協力</li> <li>・ 無人航空機と有人航空機との安全性の確保に関する調査、研究</li> </ul>	公 2
6	その他、本協会の目的を達成する為に必要な事業	福利厚生	他
		表彰関連事業	他

(参考)

公益社団法人である本協会の事業は公益目的事業とその他の事業に分類され更に公益目的事業は事業の性格より 2 つに分類され内閣府より認定を受けています。

航空の安全文化の普及と諸般の調査研究を対象としている事業	公 1
運航の安全に資する知識の向上と情報提供及び調査研究を対象としている事業	公 2
本協会の目的を達成するために必要な事業	他